

第十一回 忠順大賞

(平成二十

八年度)

入賞作品

- ・応募総数 一七七九首
- ・久米翠雲先生 選評

小学生の部

豊田市長賞

駒場小四年 石川 晴仁

お母さんいっしょにいと楽しいよ

見あげた背中ぼくおいつくよ

※お母さんと仲良しなんだ。心も体も大きくなって母に追いつきたい。「見あげた背中」にぬくもりと大きさが分かる。

豊田市教育委員会賞

堤小四年 沼崎 千昂

どこまでも見えたあの日のあの景色

スカイツリーで王様気分

※その日は天気良かったんだね。

「王様気分」でその時の感動と爽やかな気分がよく伝わってきます。

会長賞 金賞

駒場小二年 宇都宮 椿希

おこつても泣いてもわたしおこられる

なぜかわわいいたい

※弟がかわいくてしかたがないよう

すが、よくわかります。たいき君はしあわせですね。

会長賞 銀賞

堤小六年 安田 佳穂

おいつこのおねだりに負け財布開けにこつと笑顔に連敗中

※買い物に行くと、おいつこのかわいいた笑顔に負けて財布のひもがゆ

るみ何か買ってしまう。下の句がいい。

会長賞 銅賞

堤小六年 増田 柚花

しんしんと畑に積もる粉雪で

キラキラ光るまほうの世界

※真っ白な銀世界の雪景色の美しさを下の句によく表現しています。感動をすなおに表現しています。

中日新聞社賞

駒場小一年 吉田 有花

はずかしいドキドキだけどう気出し

声かけてみて友だちふえた

※あたらしいお友だちをつくることはたいへん。勇気をだしたことがすごい。上の句がいいです。

優秀賞(四名)

堤小四年 福田 実桜

書き初めは 初めて金賞もらえたよ

報告するのにドキドキしたよ

※練習したかいがあって金賞。家族に報告するのに胸がドキドキしてしまった。うれしさがよくわかります。

堤小三年 杉山 司樹

おもちつき返し手じいちゃん

ぼくはつく

やわらかペタンふんわりするよ

※三年生でもちつきはたいへんです。やさしいおじいちゃんが、つきやすいうるかけ声などかけて、よかったね。

堤小二年 松永 咲希

雪がふるわたがしみたい

おいしそう

わりばし持ってあつめに行こう

中学・一般の部

※雪ふりのうれしさを、「わたがし」

にして割りばしで集めるという思

いつきが大変いいですね。

堤小二年 山下 はるひ

わだいをバチでたたいて

ドドドンコ

うでにかんじるといこのリズム

※和だいがだいすきですね。下の

句にむねにまでひびく、その感動

がよく表されています。

豊田市長賞

前林中三年 山下 智弘

道歩き先へ先へと行く僕に

ちょっと待ってと言う母笑顔

※元気のいい君は、母も同じように

歩けると思った。しかし、母より

も元気で強くなった。下の句は母

の喜びの顔。

豊田市教育委員会賞

高岡町 早川 寛子

大寒の集場所へ来る子等の

吐く息白く白く昇れり

※大勢の児童が集場所に集まる。

寒い朝、子供らの吐く息は白い。

幾筋も晴れた空に昇る。下の句が

いい。

会長賞 金賞

前林中三年 赤瀬 太一

腕の中抱きかかえれば眠るのに

置いたとたんに泣き出す赤子

※妹かな、弟かな。大好きなんだね。

泣くとまた直ぐに抱っこしてしま

う。子守してくれてお母さんも大

喜び。

会長賞 銀賞

前林中二年 田中 梨湖

弟が大人に見える時がある

シュートが決まったその瞬間

※サッカー大好きの弟が、パスされ

たボールを見事ゴールした瞬間、

弟が大人に見えた。かっこいいで

すね。

会長賞 銅賞

前林町 甲村サカエ

笑む夫の遺影に元氣いただきて

ひねもす畑で一汗流す

※遺影の夫は笑顔で優しい。その写

真の夫から元気を貰い、一日中畑

仕事で汗を流した。寂しいが幸せ

ですね。

中日新聞社賞

前林中二年 神近 晏那

いつの間に肩を並べる母の背と

愛の深さは越えられない

※両親に愛されて、いつの間にか母

と肩を並べるほどに育ててくれた。

下の 句に母への感謝の思いが溢

れる。

優秀賞（四名）

前林中一年 甲村 尚大

半年前新品だった僕の靴

汗の分だけきずも増えたね

※半年前に買ってもらった運動靴。

部活でグラウンドを駆け回った。汗

も溢れた。靴に傷もついた。下の

句いいね。

前林中三年 酒井 花菜

帰り道周りに広がる田畑で

私を迎える祖父の笑顔よ

※私が学校から帰る頃、祖父はいつ

も畑から「お帰り」と迎えてくれ

る。私も笑顔で返す・嬉しさ一杯。

前林中一年 石橋 龍和

震える日兄に飛びつき温まる

これぞ僕らの家族のカイロ

※寒くて震えるような日。学校から帰って兄がいると飛びついていく。兄は僕のカイロだ。面白い！

前林中三年 長原 昂暉

家帰りたいたいと言つと お帰りと

その一言で心安らぐ

※いつも出迎えてくれるのは誰かな。長原君は幸せだね。誰か家においてくれて、笑顔のやり取りができて。

* * * * *

第十一回目となります「忠順大賞」に総数一七七九首の作品を応募頂き大変嬉しく思っています。

二月三日事務局での第一次審査を経て、今年度、新たに審査をお願いしました久米翠雲先生による最終審査により二十名の方が入選されました。

た。おめでとうございます。また先生には講評も添えていただきました。

日々の小さな出来事を通して、自分の気持ちを素直に詠んだ歌に共感したり、驚いたり、感激したりと今年も多くの作品に出会うことができました。季節や人間関係などを三十一文字のなかで、深く広がりのある表現ができるということを改めて感じております。

応募して下さった大勢の方々、授業、行事等で大変お忙しい中、毎年指導、協力して頂いています小、中学校の先生方に感謝いたします。

事務局 川村